

ドル/円相場のトレード戦略

■ 中長期展望

2017年のドル/円相場に関しては、堅調な足取りを続ける米国経済を前提に、FRBによる3度の利上げ予想を背景にしてドルが底堅い動きとなるシナリオをメインに考えてきました。

【ドル/円 週足】



さらに、トランプ大統領が大統領選中に主張していた経済政策が実施されれば、米国経済成長は一段の加速となり、ドルの上値余地も大きく広がる可能性を考えてきました。

ドルの下値に関しては、当面110円、これを割れても108円水準までであり、110円以下は長くは続かないとの見方をしてきました。

しかし、4月17日現在、ドル/円は108円前半での動きとなっており、108円割れを試すムードが強まっています。

急速に円高に振れてきた要因は二つあり、ひとつは米国のシリア攻撃に端を発した地政学リスクの高まりであり北朝鮮に対する米国の強硬な態度が挙げられます。二つ目は、再びトランプ大統領が「ドルは高すぎる」と為替市場に直接言及してきたことです。

この二つにより、市場の見方は大きく転換してしまい、ドル買いポジションを調整する動きに繋がりました。

ただし、地政学リスクが実際に危機に繋がる可能性は大きくはなく、また米国の為替政策に関しては、麻生副総理とペンス副大統領の日米経済対話の行方を見守りたいところです。

したがって、年後半に向けての展望を転換するには時期尚早であり、今後の動きを見極める必要があると考えます。

ドル/円相場のトレード戦略

もともと、108円水準は、中期の方向性を示す52週移動平均線もありテクニカル的にも重要な水準となっているため、これをクリアーに下抜けてきた場合は、ドルに一段の下落余地が広がる可能性も意識しておきたいところです。

■ 短期展望

先週は、週初に111円台でスタートしたものの、米国が原子力空母を朝鮮半島周辺に派遣との報道が伝わると、地政学リスクの高まりからドルは下落する動きとなりました。

また、週末にはイースター休暇で市場が薄商いとなるなか、トランプ大統領の「ドルは強すぎる」「低金利政策を好む」という発言が伝わると108円55銭まで下落し、大きな戻りもなく108円台での週越となりました。

今週も、週初に108円台前半まで売り込まれるなど、ドルの上値の重い状況で始まっています。朝鮮半島をめぐる地政学リスクへの懸念が、ドル買いポジションの解消に繋がっており、今週もドルの軟調な動きが続きそうです。

ただし、北朝鮮リスクを見た場合に、地理的に近い日本円を買い進むことにも疑問があり、今週は108円の攻防、また下抜けたとして底値がどの水準になるのかを見極める必要があるように思えます。